

恐竜が眠る街：北九州市からの 竜脚類恐竜化石の発見と実物化石展示公開

この度、北九州市に分布する白亜紀前期の関門層群から見つかった化石が福岡大学と熊本大学の研究の結果、竜脚類恐竜の頸椎（首の骨）とわかり、学術誌に論文が受理されたので「化石の日」関連イベントとして下記のように特別公開します。

【記】

1. 展示標本 竜脚類恐竜頸椎実物化石 1 点(ティタノサウルス型類に分類される恐竜の首の骨)
2. 産 出 地 北九州市小倉南区（産地保護のため詳細は伏せます）
3. 時 代 中生代白亜紀前期の約 1 億 1000 万年前
4. 掲 載 誌 日本古生物学会英文誌パレオントロジカル・リサーチ (Paleontological Research) 10 月 11 日早期公開
著 者：立畠潤一郎（株式会社旺計社）・椋木俊文（熊本大学大学院先端科学研究部）・田上 響（福岡大学理学部地球圏科学科）
5. 意 義 (1) 関門層群から初の竜脚類恐竜の報告であること
(2) 関門層群から見つかった最大の動物の化石であること
(3) 白亜紀前期の東アジアの竜脚類恐竜の多様性に新たな知見を与えたこと
(4) 北九州市内から 2 つ目の恐竜産出報告であること
6. 特別展示 期間：令和 4 年 10 月 13 日（木）から 12 月 4 日（日）までを予定
場所：北九州市立自然史・歴史博物館
10 月 13 日（木）10:00～10:30 で田上博士、大橋学芸員が解説等を行います。
7. 詳細情報 別紙参照
8. 著者らへの連絡先 福岡大学理学部地球圏科学科助教 田上 響 博士 電話：092-871-6631
(10 月 13 日 15～16 時半・10 月 14 日 15～17 時は対応可能)

【お問い合わせ先】

いのちのたび博物館（北九州市立自然史・歴史博物館）

〒805-0071 北九州市八幡東区東田 2-4-1

電話：093-681-1011 担当：自然史課 大橋・普及課 村口

（大橋：13 日は 19 時まで対応可能）

詳細別紙

【竜脚類ティタノサウルス型類とは】

竜脚類恐竜は首と尻尾の長い四本足の大型の植物食恐竜で、いのちのたび博物館で展示しているディプロドクス（旧セイスモサウルス）やカマラサウルスなども属します。この竜脚類恐竜の中に「ティタノサウルス型類」という分類群があり、ブラキオサウルスやエウヘロプスなど多様な仲間が属します。（「ティタノサウルス型類」表記は富田他, 2020 による）

【北九州市から見つかったティタノサウルス型類】

化石は 1996 年に北九州市小倉南区で発見されました。非常に硬い岩石に埋まっていたことなどから長らく保管したままでしたが、2013 年から論文筆頭著者の当時福岡大学田上研究室の学生によって化石の剖出作業と比較研究が行われました。更に熊本大学 X-Earth センターで CT スキャンも行い、福岡大学と熊本大学の共同研究で詳細な比較を進めました。

研究の結果、骨内部に見られる区画の形態的な特徴などから竜脚類ティタノサウルス型類の頸椎（首の骨）の一部であることがわかりました（図 1・2）。白亜紀前期のアジアに生息し頸椎も見つかっている他のティタノサウルス型類恐竜のキアオワンロン（中国）やエーケトゥ（モンゴル）などと比較した結果、標本は首の中央付近の骨で、全長は約 10～15 m と推定されます。

【日本の竜脚類】

日本からはこれまでに学名がついているフクイティタン（福井県勝山市／白亜紀前期／手取層群）、タンバティタニス（兵庫県丹波市／白亜紀前期／篠山層群）の他、岩手県岩泉町の（通称）モシリユウ（上腕骨の一部／白亜紀前期／宮古層群）、三重県鳥羽市の（通称）トバリユウ（尾椎、上腕骨など／白亜紀前期／松尾層群）、東北・関東・北陸・中部・四国・九州の白亜紀の地層から歯などが報告されています。フクイティタン、タンバティタニスは推定全長がそれぞれ十数 m とされており、今回の標本の推定全長もこれら 2 種と同じくらいと考えられます（図 3）。

【関門層群と北九州市】

関門層群は白亜紀前期の地層で、北九州市をはじめとする福岡県北部や山口県下関市に分布します。より古い脇野亜層群と新しい下関亜層群の 2 つから構成され、脇野亜層群は約 1 億 1000 万年前の大きな湖に堆積した地層として知られています。

脇野亜層群からは多様な脊椎動物化石が知られており、様々な魚類化石、角竜類恐竜の歯の化石が北九州市内から、肉食恐竜の歯の化石やカメの化石が福岡県北部から報告されています。また、いのちのたび博物館の人気展示「エンバイラマ館」のジオラマは脇野亜層群から見つかる化石を参考に展示が作られています。

近年、日本各地から恐竜化石が報告されています。多くの産地は山奥の沢や海岸沿いなど街から離れた場所がほとんどです。一方、今回の報告をはじめとする北九州市の恐竜化石は、市民の皆さんが住んでいる場所のすぐ近くから見つかっています。北九州市は恐竜化石が眠る大地の上に 100 万人近い人が暮らす都市があり、全国でも非常に珍しく貴重な特色で、まさに「恐竜が眠る街」と言えるでしょう。

【化石の日】

2017 年に国際古生物協会が「国際化石の日」を 10 月第 2 週の土日と制定し、古生物学の発展と普及を目的とする日本古生物学会が毎年 10 月 15 日を「化石の日」としたものです。毎年この日前後の期間で国内の大学や博物館など化石を扱う機関で「化石の日」関連イベントを開催して、古生物学や地球の歴史への興味関心を高める取り組みを行っています。当館でも 2020 年にプロトプテルム類（ペンギンモドキ）新種の化石の特別公開を行いました。「# 化石の日」で検索すると様々な取り組みを知ることができます。

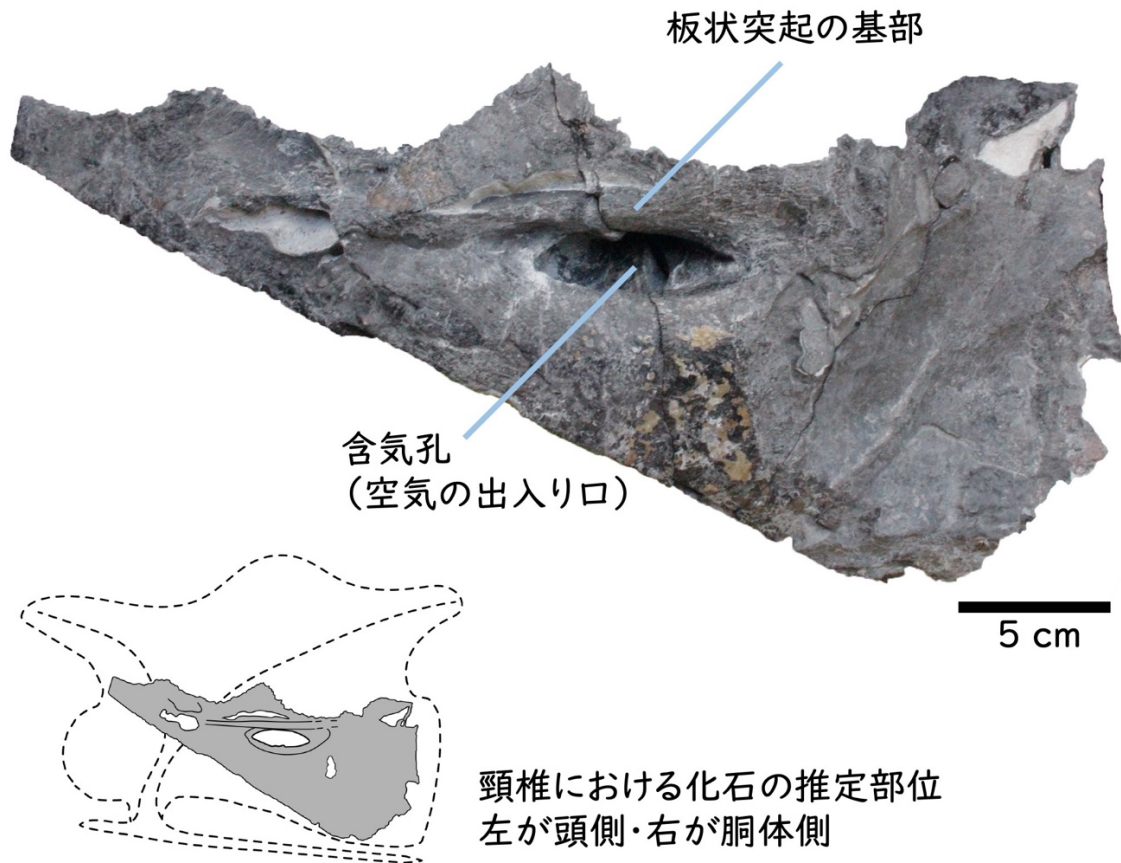


図1 上：北九州市で発見された竜脚類恐竜の頸椎化石（左外側面）。立畠潤一郎（旺計社）撮影。
左下：竜脚類頸椎の復元図（点線）。図：田上響（福岡大学）作成。

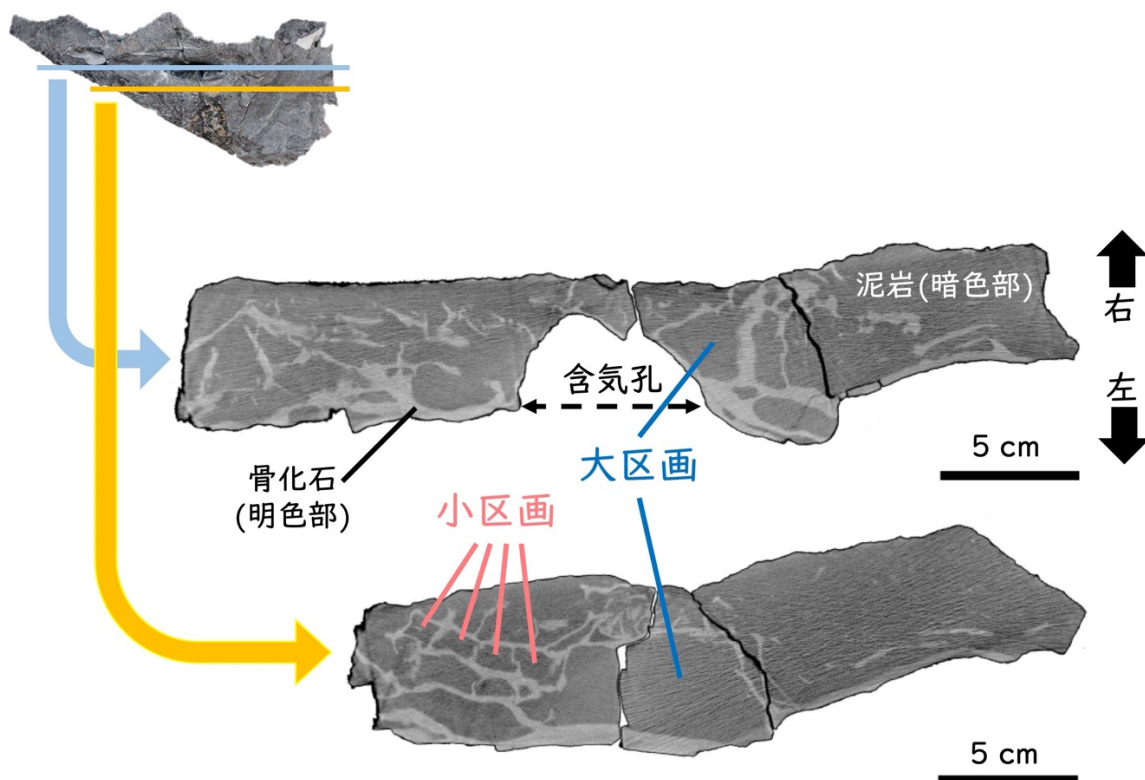


図2 竜脚類頸椎化石のCT画像。椋木俊文教授（熊本大学大学院）撮像。図：田上響（福岡大学）作成。

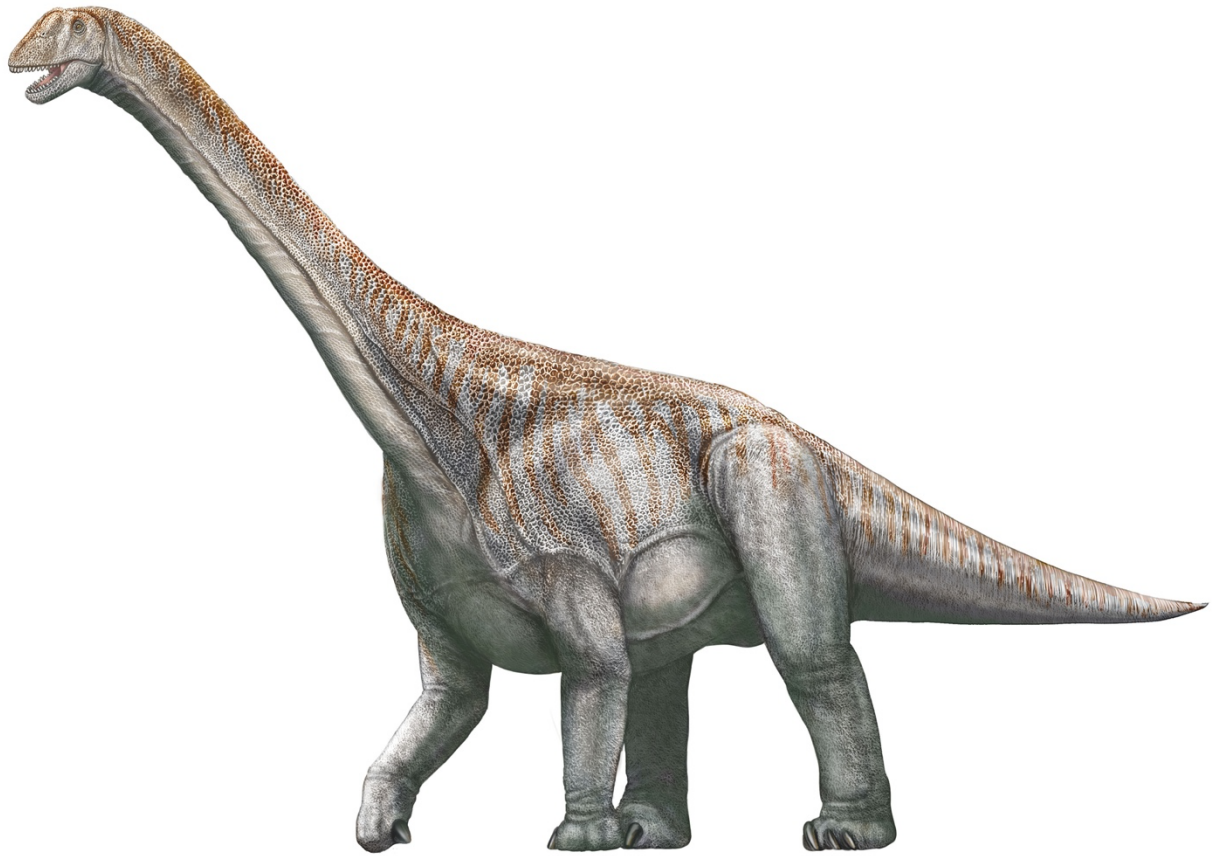


図3 北九州の竜脚類の復元画 (© Utako Kikutani)

*各画像をご利用の場合、データをお渡ししますので別途ご連絡ください。著作権は図1と図2：田上響（福岡大学）、図3：菊谷詩子及び北九州市立自然史・歴史博物館が有します。ご利用の際は各図のキャプション表記をそのまま明記してください。また今回ご取材いただく記事のみで使用可能です。